

2020年にはタバコの煙がない日本に！

【日本語のみ】

レティツィア・グアリーニ(イタリア)

日本滞在期間：4年間

学生、30歳

最初来日したとき、私は21歳の喫煙者でした。居酒屋、バー、カフェ、とにかくタバコが吸える場所には常にタバコを吸っていました。しかも、「自由にタバコを吸えていいな」と思いながら、一緒にいたタバコを吸わない友だちのことをまったく気にせずずっと吸っていました。自分のなかでは、酒とタバコ、コーヒーとタバコ、食後とタバコがセットとなっていました。

次に日本に来たとき、私は23歳の喫煙者でした。当時も居酒屋、バー、カフェなどに行ったらタバコを吸っていましたが、周りに吸わない人がいたら少しだけ罪悪感を抱くようになっていました。「私が自由にタバコを吸うことを選んでいますが、私の自由な選択が周りの人の自由に影響を与えるなんておかしい」と思ったりしました。

3回目は26歳のとき日本に来ました。当時も喫煙者でしたが、「喫煙席か禁煙席かどちらにしますか？」と聞かれたらなんとなく「禁煙席」と答えるようになっていました。おいしいものを食べるときはそのおいしい味を感じたいし、おいしいコーヒーを飲むときはその香ばしい匂いも味わいたいと思っていました。タバコを吸いたいと思ったら、喫煙席に移動して、そこでタバコの味を楽しめればいいと思っていました。

私は現在30歳です。東京に住んですぐ4年になる喫煙者です。毎日のようにレストラン、居酒屋、カフェなどに入出入りしています。そして、毎日のように様々なお店でわいわいしているお客さんを観察しています。サラリーマンもいれば、大学生もいます。しかし、その中には子ども連れのママとパパたちがいないことにいまさら気付きました。日本の居酒屋やカフェに入ってみると、日本はどれだけ「子どもフレンドリー」ではないことがすぐ理解できるのです。「そうだ！ 子ども連れの人も喫煙のことを心配せず、自由に好きなお店に入出入りする権利があるんだ」とふと思いました。当たり前なことですが、そんな当たり前なことでは日本ではできないわけです。

「輝く女性の日本を作ろう」

「日本のために、世界のために少子化問題を解決しよう」

「2020年のオリンピックの際に外国人観光客により良い日本を見せよう」

しばしばこのような言葉を耳にします。しかし、より良い日本を作り上げるために、より快適な環境を作り上げることが第一歩なのではないでしょうか？ それは「ジョセイ」「コドモ」「ガイコクジン」のためだけではなく、性、年齢、国籍を問わず、日本に滞在している皆のためです。

東京オリンピックが大会が開催される2020年に私は35歳になります。たぶんそのときも私は喫煙者でしょう。しかし、2020年にはタバコの煙や匂いを気にせず、子どもを連れて自由に居酒屋の席に座りたいと願います。喫煙者もそうではない人も、サラリーマンでも家族連れでも、同じ店で同じおいしい料理とお酒を楽しめる権利があると思いませんか？